

夏石番矢に『空飛ぶ法王 44句』

Ban'ya Natsuisshi, II Papa che vola: 44 haiku/空飛ぶ法王44俳句, Rupe Mutevole, Italy, 2010, ISBN978-88-6591-030-6, ・5

年賀状をもらった返事に『空飛ぶ法王 44俳句 II Papa che vola: 44haiku』のイタリア語訳を読んだ感想を夏石番矢に伝えた。私は Luca Toma の「イタリア語訳もそのままハイクになっている」と褒めた。それだものだから、嬉しくなった夏石は凶に乗って本誌に自画他讃の一文を書いてくれろ、と私にいう。五七五は短い。イタリア語訳もすっきりとそのままの訳で短い。だから夏石の注文どおり長い感想など書けるはずはない。しかしそのすっきりと短い直訳に夏石の俳諧のユーモアも滑稽も伝わっているから、そこがなんとも面白い。結構多くのイタリア人がこの句集に興じるのではあるまいか。

ヴァチカンで次にコンクラーヴェと呼ばれる法王選挙会議が開かれる際には、年配の枢機卿の皆さまは投票また再投票とコンクラーヴェが何日も続いて根比べでさぞかしお疲れになるだろう。その節は皆さま休憩時間は根回しなどに奔走せず、『空飛ぶ法王 44俳句 II Papa che vola: 44haiku』でも読んで一息ついていただく方がよいことではあるまいか。できることなら、この句集を読んで微笑を浮かべるような方が選挙されるとめでたい。だがさそうまくいくかどうか、何色の煙が出るか、落ちるか落ちないか、いや多分当選は難しいであろう。

「選挙は選挙」 灰色の空飛ぶ法王

からから天から声降りしきる空飛ぶ法王

夏石番矢を読んだら落ちる空飛ぶ法王

この三句のうち二句は平川の駄句。すなわちバナルな句である。しかし、「選挙は選挙」がバナルなのは法王を選ぶ枢機卿も所詮バナルな人間存在だからであろう。

法王は超時間的な存在でなければならぬ。私はそう思うものだから、年賀状でルーカ・トーマのイタリア語訳に一点だけ疑問を呈した。

暗黒や弾より速く空飛ぶ法王

Oscurita—

Piu veloce di pallontols

II Papa che vola

この「暗黒や」は「静かさや」と同じような詠嘆の間投詞であっては月並みで、空飛ぶ法王は「暗黒や弾よりも速く」なければならぬ。イタリア語で**piu veloce dell'oscurita**でない**と面白くない**、いいかえると空飛ぶ法王は、弾は無論のこと、暗黒よりも

速く飛ぶ超時間的存在でなければならぬ。そのような解釈を年賀状の返事に私は示した。ところが夏石先生はそうした超現実主義的な大先生の解釈には賛意を表さない。トーマ訳で正しいという。それでいて子供がおねだりするように私に一文を書いてくれる、といった。

実は私は夏石番矢讚をすでに書いたことがある。それもきちんと活字にしてある。その本も夏石に贈つてある。たとい夏石の名前が後世忘れさられてもその書物は残るだろうよ。うな、すこぶる学術的な書物である。そんなれっきとした平川祐弘著『ダンテ『神曲』講義』という本に自分の名前が出てくるはずはないと思ひ込んでいたところが夏石の不覚である。もつとも河出書房新社の編集者は私が索引に入れておいた夏石番矢の名前は余計だと消してしまった。それだから夏石はこれから全巻を読み通さないと、本当に自分の名前が出てくるのか否か、それともまたしても平川に担がれたのか否か、わからない。夏石はせつかちで落ち着いて一冊の書物をじっくり読みとおすことの出来ない感受性が先走りする男である。そんな男に読書の労を省いたりしてやっではならないのだが、夏石は信じないだろうが、しかしそこにはこう書いてある。

それから私は最近夏石番矢の『空飛ぶ法王 一六一俳句 Flying Pope 161 haiku』(二)おろ社発行・東京堂出版発売)という英訳も見事な挿絵もはいつた、刮目(かつもく)すべき句集を読んで爽快な気分を味わいました。あれを読んで私『神曲』翻訳の際に papa の語に教皇でなく歴史的に由緒のある法王を用いて良かったとあらためて感じました。夏石さんの俳句世界は、あれは「法王」だから天空を自在に舞えるので「教皇」だったらああはいかない。法王には高雅な鳳凰の響きもあるが、夏石俳句の法王が教皇などと呼ばれたら恐慌をきたして天から墜落してしまうでしょう。もつともこうした私の感想は夏石番矢の俳句を読んでいただかないと読者の皆様に通じるべくもないが、読んだ方には即座に合点が行くと思います。俳句集として近年の日本の、というか世界のハイクの傑作です。

空飛ぶ法王まばゆき今日の初日の出

これが私の夏石番矢讚であり、私が彼に与える旭日大綬章である。